

2020年7月28日

2020年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

コロナ感染収まらず 県内産業景気は低迷続く

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、6月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

○県内産業の現況（2020年4～6月期）は、『好調』の業種はなく、『順調』が「食品・飲料・製茶」の1業種、『普通』が「製紙」「民生用電器部品」「情報サービス」の3業種、『低調』が「建設」の1業種となった。

○『不調』は「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の10業種となった。

※産業構造の変化に伴い、対象業種の見直しを実施。今回調査より業種区分を20から15に変更。

今後の見通し

○7～9月期の見通しについては、14業種は横ばいで推移し、「製紙」は『普通』から『低調』へと一段階下降する見通し。内訳を見ると『好調』業種はなく、『順調』1業種、『普通』2業種、『低調』2業種、『不調』10業種となっている。

○県内では、外出自粛や休業要請を伴った緊急事態宣言解除後、新型コロナウイルス感染は小康状態を保っており、感染防止対策をとりつつ事業活動が再開されている。しかし、東京都を中心に首都圏で感染拡大が収まらず、第2波に対する不安がある中、消費活動の回復テンポは鈍く、県内産業は景気の最悪期こそ脱したものの、依然として過去最低水準の状況が続いている。

業 種	業 界 天 気	
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)
製 紙		→ 
食品・飲料・製茶		→ 
工 作 機 械		→ 
民生用電器部品		→ 
自 動 車 部 品		→ 
二 輪 車 部 品		→ 
建 設		→ 
住 宅		→ 
大 型 小 売 店		→ 
自 動 車 販 売		→ 
物 流		→ 
情 報 サ ー ビ ス		→ 
人 材 派 遣		→ 
観 光 ・ レ ジ ャ ー		→ 
外 食		→ 

※本件のお問合せ先 担当（大石 彰男）

コロナ感染収まらず、県内産業景気は低迷続く

業界景気の現況（2020年4～6月期）

県内産業の現況（2020年4～6月期）は、『好調』の業種はなく、『順調』が「食品・飲料・製茶」の1業種、『普通』が「製紙」「民生用電器部品」「情報サービス」の3業種、『低調』が「建設」の1業種で、『不調』は「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の10業種となった。

＊今回調査より業種区分を20から15に変更

業界景気の見通し（2020年7～9月期）

7～9月期の見通しについては、14業種は横ばいで推移し、「製紙」は『普通』から『低調』へと一段階下降する見通しとなり、『好調』業種はなく、『順調』1業種、『普通』2業種、『低調』2業種、『不調』10業種となっている。県内では、外出自粛や休業要請を伴った緊急事態宣言解除後、新型コロナウイルス感染は小康状態を保っており、感染防止対策をとりつつ事業活動が再開されている。しかし、東京都をはじめ首都圏で感染拡大が収まらず、第2波に対する不安が拭えない中、消費活動の回復テンポは鈍く、県内産業景気は最悪期こそ脱するものの、過去最低水準の低迷した状況が続く。

インバウンドの消失、外出自粛に伴う国内客の急減に見舞われた「観光・レジャー」は『不調』のまま推移する見通し。静岡県が展開する観光促進キャンペーンや市町の支援策、国の「Go To キャンペーン」による需要回復に期待をかけるが、すでに夏の主要イベントが中止となっており、首都圏の感染状況を鑑みると前年並みの宿泊需要確保は難しい。「外食」も前期から改善するものの、“新しい生活様式”に対応して収容客数を大きく減らさざるを得ず、来客数は前年比7割程度の水準にとどまる模様。高額品や嗜好品の購入マインドが極端に冷え込んでいることから、「大型小売店」「自動車販売」「住宅」とも『不調』。ただし、食品販売は内食需要の高まりを受けて底堅いとみられる。

外出を控え、自宅での生活を充実させようという動きは、「食品・飲料・製茶」にとっても追い風となり、15業種中で唯一『順調』のまま推移する見通し。在宅時間の増加で家庭のエアコン増設を見込む「民生用電器部品」、堅調なIT化投資を背景に前年並みの実績を見込む「情報サービス」の2業種は『普通』で推移する見通し。トイレ紙、段ボール原紙ともに前年割れが見込まれる「製紙」は『普通』から『低調』に下降、「建設」は民間工事が落ち込むが、公共工事の前年比増を受けて『低調』にとどまる。

一方、世界的には感染拡大が止まらない中で、主力である欧米市場の回復が見込めない「工作機械」や「自動車部品」「二輪車部品」は『不調』が続く。その悪影響は「物流」や「人材派遣」にも波及し、両業種とも『不調』のまま推移する模様。

2020年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気 現況 (4-6月)	見通し (7-9月)	売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
製 紙		→ 	→	トイレ紙、段ボール原紙ともに前年割れの見込み
食品・飲料・製茶		→ 	→	「新しい生活様式」の中、堅調な内食需要を背景に売上高は前年並み
工 作 機 械		→ 	↓	内外需とも回復を見通せず、厳しい水準で推移する見込み
民生用電器部品		→ 	→	家庭用エアコンは、過去最高水準だった前年には届かない見通し
自 動 車 部 品		→ 	↓	部品不足は解消するが、世界的な需要減により一部で生産調整続く
二 輪 車 部 品		→ 	↓	コロナの影響で需要の回復鈍く、受注量は前年比大幅減
建 設		→ 	↓	感染防止対応で発注業務の一部に遅れ、民間工事は大幅マイナス
住 宅		→ 	↓	外出自粛や雇用・所得不安の顕在化で、購入検討を先送り
大 型 小 売 店		→ 	↓	総合スーパーは飲食料品が伸長するが、百貨店は衣料品の不振が響く
自 動 車 販 売		→ 	↓	コロナの収束が見通せない中、販売台数は大幅に落ち込む見通し
物 流		→ 	↓	輸送用機器などの低迷から、前年を▲10%程度下回って推移
情 報 サ ー ビ ス		→ 	→	既存案件は堅調だが、新規案件の停滞が懸念材料
人 材 派 遣		→ 	↓	製造業で派遣需要の低迷が続く見通し
観光・レジャー		→ 	↓	最悪期は脱するが、イベント中止がマイナスに作用
外 食		→ 	↓	来客数は前期より改善するが、前年を大幅に下回る

表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調	↗	非常に増加(+10%以上)
	順 調		不 調	→	増 加 (+3～+9%)
	普 通			→	横 ば い (+2～△2%)
				↘	減 少 (△3～△9%)
				↘	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査『現況』推移

年 次	2017年		2018年				2019年				2020年	
四 半 期	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II
対象月 (○は調査月)	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6
全業種の 平均階級値	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95	2.90	2.90	3.15	2.90	2.65	2.30	1.67
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
(業 種 数)	好調	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0
	順調	3	2	2	2	3	4	3	5	3	2	1
	普通	9	8	10	10	10	10	11	8	8	5	3
	低調	8	9	7	7	6	6	4	7	8	10	1
	不調	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	10

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4～6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7～9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
調査時点…2020年6月上旬
回答企業…県内主要15業種(236社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。
(2020年1～3月期までは20業種の平均値)

各業種および表の見方

製 紙 トイレ紙、段ボール原紙ともに前年割れの見込み

【現況】



↓

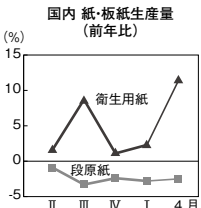
【見通し】



【4～6月期】トイレ紙・ティッシュは2月末以降受注が急増したが、5月に減少した。業務用が大幅3割増加。段ボール原紙は、食品、日用品向けなどが減少したが、電気機械向けなどが減少し、全体では微減だった。

【7～9月期】トイレ紙・ティッシュは、8月頃から受注は回復するとみられるが、業務用は減少が続き全体では前年水準を割り、引き続き食品、日用品向けなどは堅調に推移するものの電気機械などが減少、全体では前年をやや割り込む見通し。

国内紙・板紙生産量(前年比)



年(四半期)	衛生用紙 (%)	段ボール (%)
2019年 II	2	-1
2019年 III	9	-1
2019年 IV	1	-2
2020年 I	2	-2
2020年 4月	11	-2

資料：経済産業省

【7～9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受 注 残
89～80%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.1～1.0ヵ月

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受 注 残
100～90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ 月
89～80%	需要超過	過 少	上 昇	上 昇	
79～70%	均 衡	適 正	横 ば い	横 ば い	
69～60%	供 給 超 過	過 多	下 降	下 降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製 紙

トイレ紙、段ボール原紙ともに前年割れの見込み

【現況】

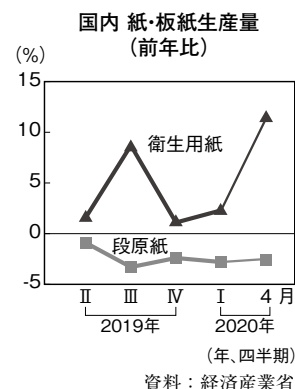


【見通し】



【4-6月期】トイレ紙・ティッシュは2月末以降受注が急増したが、5月上旬から反動減が発生、特に業務用が大幅に減少した。一方、タオル用紙は前年比2～3割増加。段ボール原紙は加工食品や日用品向けが増加したが、電気機械向けなどが減少し、全体では微減だった。

【7-9月期】トイレ紙・ティッシュは、8月頃から受注は回復するとみられるが、業務用は減少が続き、全体では前年水準を割込む見通し。一方、タオル用紙は、引き続き前年を上回って推移する見込み。段ボール原紙は、食品、日用品向けなどは堅調に推移するものの電気機械などが減少、全体では前年をやや割込む見通し。



【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受 注 残
89～80%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.1～1.0ヵ月

食品・飲料・製茶

「新しい生活様式」の中、堅調な内食需要を背景に売上高は前年並み

【現況】

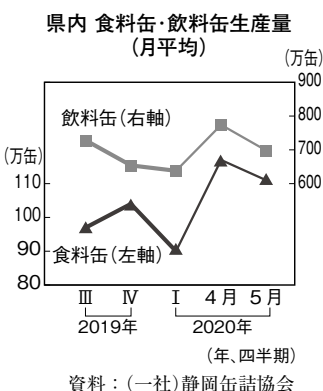


【見通し】



【4-6月期】県内食料缶メーカーの国内生産量は、前年を+20%程度上回ったものの、海外含みの生産量および売上高は、前年並みにとどまった模様。飲料缶類は、小型缶需要が低調で生産量は前年を下回った。製茶は、生産量が落ち込み、新茶取引も不調で単価も下落した。

【7-9月期】県内の食料缶メーカーの生産量は、「新しい生活様式」下、堅調な内食需要が見込まれ、前年を+10%程度上回る見通し。ただし、海外を生産含む売上高は、前年並みで推移しそう。飲料缶類の生産量は、天候不順で低調だった前年実績を上回る見込み。製茶は、ドリンク原料の過剰在庫により単価が下落する模様。



【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受 注 残
100～90%	均衡	適正	下降	横ばい	0.1～1.0ヵ月

工作機械

内外需とも回復を見通せず、厳しい水準で推移する見込み

【現況】

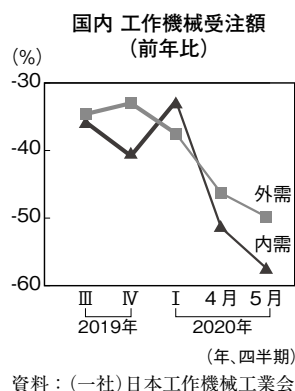


【見通し】



【4-6月期】全国および県内の受注額は、前年を▲50%程度下回って推移した模様。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、企業の生産・営業活動が停滞、設備投資に対する慎重姿勢がいつそう強まった。特に、主力の自動車向けの受注が大きく落ち込んだ。

【7-9月期】全国および県内の受注額は、前年を▲30～40%下回る見通し。外需は、メインの中国向けに底打ち感があるが、9月に米国で開催予定の国際製造技術展が中止になるなど、需要回復には時間がかかりそう。内需も、今年度の設備投資計画を大きく見直す企業が増えており、依然として厳しい状況が続くとみられる。



【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比

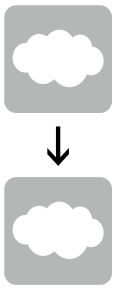


操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受 注 残
69～60%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.5～5.5ヵ月

民生用電器部品

家庭用エアコンは、過去最高水準だった前年には届かない見通し

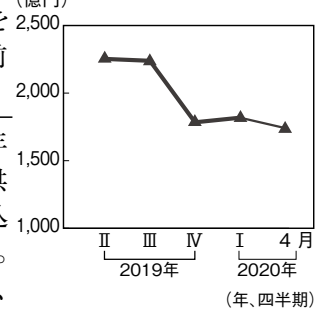
【現況】
↓
【見通し】



【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年を▲10%前後下回った模様。消費増税後の反動減に加えて、家電量販店が4月から5月にかけて休業や営業時間を短縮した影響もあったとみられる。冷蔵庫や洗濯機も、前年をやや下回って推移した模様。

【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや下回る見通し。在宅時間の増加で、書斎や子供部屋用の需要増加が見込まれるものの、増税前の駆け込み特需で過去最高水準だった前年には届かない模様。冷蔵庫は、内食需要の拡大で大容量機種が人気を集め、全体では前年並みで推移する見込み。

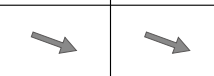
国内 家庭用電気機器出荷額
(月平均)



資料：経済産業省

【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

部品不足は解消するが、世界的な需要減により一部で生産調整続く

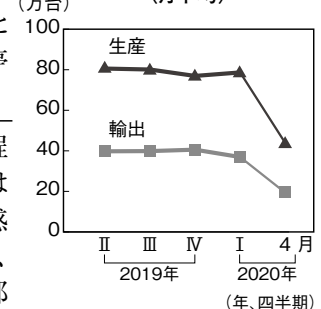
【現況】
↓
【見通し】



【4-6月期】全国の自動車生産台数は、前年比▲5割超と大きく減少した模様。新型コロナウイルスの影響により、海外からの部品調達に支障が生じたほか、国内・海外ともに需要が急減した。県内部品メーカーも、一時操業停止を余儀なくされるなど大きく影響を受けた。

【7-9月期】全国の自動車生産台数は、前年を▲3割程度下回って推移する見通し。部品の調達問題に関しては解消しつつあるものの、世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、国内・海外市場ともに回復が見通せず、完成車メーカーの一部で生産調整が続く見込み。県内部品メーカーの生産量も、前年を下回って推移する見通し。

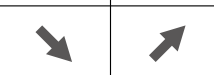
国内 自動車生産・輸出台数
(月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
69~60%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.1~2.0ヵ月

二輪車部品

コロナの影響で需要の回復鈍く、受注量は前年比大幅減

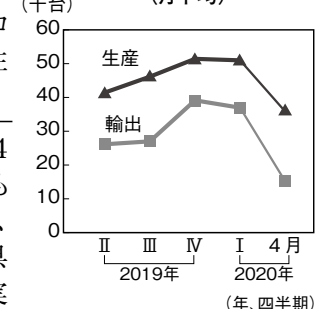
【現況】
↓
【見通し】



【4-6月期】全国の完成車生産台数は、前年比▲6~7割減と、前年実績を大きく割り込んだ模様。部品調達に支障が生じ、需要急減による生産調整も実施され新型コロナウイルスの影響が拡大した。県内部品メーカーの受注量も、前年水準を大きく下回ったとみられる。

【7-9月期】全国の完成車生産台数は、前年比▲3~4割減少する見通し。国内市場の回復は鈍く、海外市場も主力である欧州が新型コロナウイルスの影響で振るわず、輸出は前年を下回る状況が続く模様。こうした状況下、県内二輪車部品の受注量は、前期こそ上回るものの前年実績を大きく割り込んで推移する見込み。

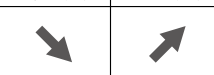
国内 二輪車生産・輸出台数
(月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
69~60%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.2~3.0ヵ月

建設

感染防止対応で発注業務の一部に遅れ、民間工事は大幅マイナス

【現況】



【見通し】



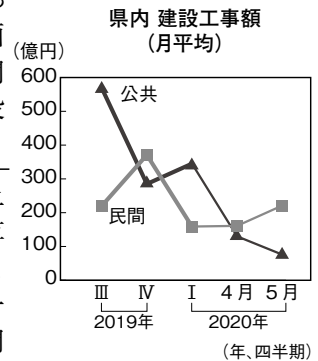
【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内の公共工事契約高は、前年を下回った模様。感染防止対応で発注業務の遅れや延期、計画見直しがみられた。国関係等は前年を上回ったが、県関係と市町関係は下回った。民間の工事費予定額は、設備投資意欲の減退から前年を大きく下回った模様。

【7-9月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや上回って推移する見通し。県および市町の今年度当初予算のうち、投資的経費は前年度比+5.4%と増額されており、前期の遅れを取り戻す積極的な発注姿勢がみられる。一方、民間企業の設備投資には慎重な姿勢がみられ、民間の工事費予定額は前年を大きく下回って推移する見通し。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	2.0~9.8ヵ月

住宅

外出自粛や雇用・所得不安の顕在化で、購入検討を先送り

【現況】



【見通し】



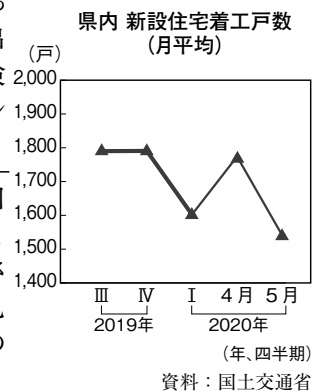
【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内の持家新設着工戸数は、前年を下回った模様。消費増税の影響が続く中、コロナ禍による外出自粛や所得・雇用不安の顕在化によって、住宅購入の検討を先送りするケースが増えた。貸家も、投資家のマインド回復には至らず、前年割れで推移した。

【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回る見通し。コロナ禍による景気の停滞や生活への不安は、住宅購入や不動産投資に対する前向きな意欲を減退させ、持家、貸家、分譲ともに、前年水準には届かない見通し。展示場やモデルルームの営業自粛など消費者との接点も制約を受け、消費喚起の動きも取りづらい状況。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給超過	適正	横ばい	横ばい	2.6~7.6ヵ月

大型小売店

総合スーパーは飲食料品が伸長するが、百貨店は衣料品の不振が響く

【現況】



【見通し】



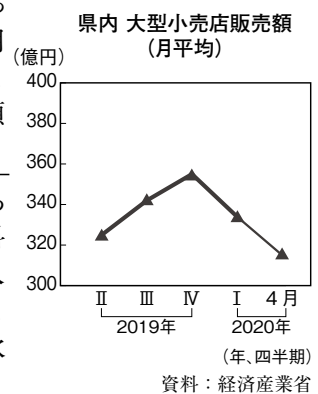
【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内大型小売店の販売額は前年を下回った。百貨店は、緊急事態宣言の発出で4月中旬から5月中旬まで臨時休業して大きく落ち込んだ。総合スーパーは、外食を抑えて家庭で食事を取る消費者が増加し、販売額全体の7割強を占める飲食料品が堅調だった。

【7-9月期】県内大型小売店の販売額は前年を下回る見通し。所得環境の悪化が見込まれる中、百貨店は衣料品の不振が懸念されるほか、マスクを日常的に着用する人が増え、化粧品の需要も減少する見込み。総合スーパーは、衣料品の低迷が危惧されるものの、肉食需要の強まりで飲食料品が堅調に推移しそう。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	下降	下降	—

自動車販売

コロナの収束が見通せない中、販売台数は大幅に落ち込む見通し

【現況】



【見通し】



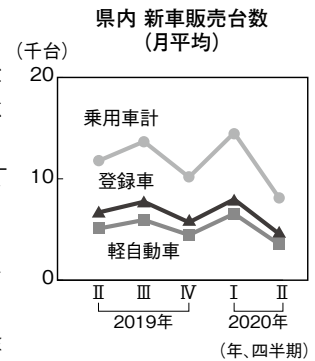
【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内の新車販売台数は、前年を▲31.3%下回った。新型コロナの影響で外出自粛が求められたほか、販売店でも営業時間を短縮するなどの対応がとられたため、大きく減少。登録車は前年比▲31.8%、軽自動車は▲30.6%と、ともに▲3割超落ち込んだ。

【7-9月期】景気への先行き懸念から高額品購入の消費マインドは極端に冷え込み、県内の新車販売台数は、前年比で大幅なマイナスが続く見通し。昨年末から今年にかけて登場した新型車の販売に期待がかかるものの、新型コロナウイルスの収束が見通せない中、登録車、軽自動車ともに前年水準を下回って推移する見通し。



資料：日本自動車販売協会連合会静岡県支部、静岡県軽自動車協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	供給超過	—	横ばい	横ばい	—

物流

輸送用機器などの低迷から、前年を▲10%程度下回って推移

【現況】



【見通し】



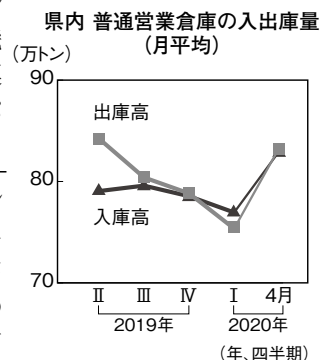
【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内のトラック輸送量は、新型コロナウイルスの影響で生産活動が停滞して、輸送用機器や電気機械の荷動きが大きく鈍化し、前年を▲10%程度下回った模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機械や紙・パルプが低調で、前年を▲5%程度下回った模様。

【7-9月期】県内のトラック輸送量は、新型コロナウイルスの影響による輸送用機器や電気機械の低迷から、前年を▲10%程度下回って推移する見通し。倉庫の入出庫高は、食品関連では堅調な荷動きが見込まれるが、主力の鉄鋼や電気機械などが前年割れとなり、総じて前年を下回って推移すると見込まれる。



資料：静岡県倉庫協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給超過	—	横ばい	下降	—

情報サービス

既存案件は堅調だが、新規案件の停滞が懸念材料

【現況】



【見通し】



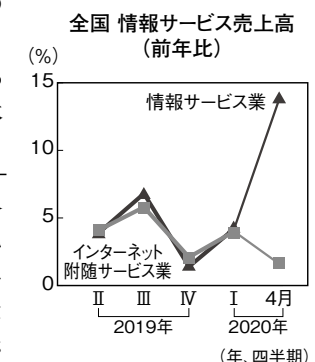
【7-9月期 売上高】

前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年並みの水準で推移した模様。新型コロナウイルスの感染拡大も、開発中の大型案件に大きな影響はなく堅調な推移となった。リモートワーク関連需要も増えているが、県内で具体化している案件はまだ少ない。

【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年並みの水準で推移する見通し。開発中の案件は順調に進捗する見込みだが、コロナ禍で首都圏を中心に営業活動制限やエンドユーザーの業績悪化により新規案件が停滞しているため、予想より下振れる懸念がある。今後は、新たな働き方に合わせたIT活用法の提案が求められる。



資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	—	横ばい	横ばい	—

人材派遣

製造業で派遣需要の低迷が続く見通し

【現況】



【見通し】



【7-9月期 売上高】

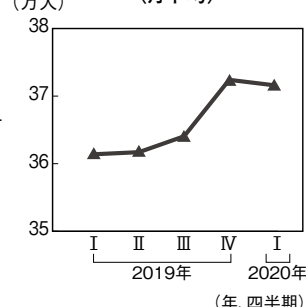
前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年比▲10%超下回って推移した模様。自動車など製造業では、工場の稼働停止等で労働者の派遣需要が激減した。一方、新型コロナウイルスの影響により、給付金対応事務などの官公庁関連業務の需要は増加した。

【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を▲10%程度下回って推移する見通し。事務やITなどの分野では、一定の需要が見込まれ、テレワークなどの働き方も広がっていくとみられる。一方、製造業では、新型コロナウイルスの影響を受け、引き続き派遣需要は低迷する見込み。

全国 派遣社員の実稼働者数
(月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給超過	—	横ばい	横ばい	—

観光・レジャー

最悪期は脱するが、イベント中止がマイナスに作用

【現況】



【見通し】



【7-9月期 売上高】

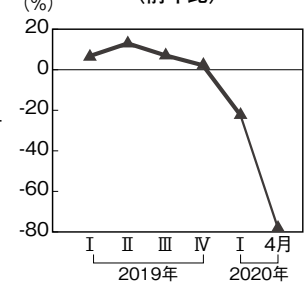
前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を大きく下回った。緊急事態宣言で4~5月は外出ができない状況が続き、宿泊需要が大きく落ち込んだ。6月中旬に県境をまたぐ移動制限は解除されたが、旅行意欲は盛り上がりず前年水準には程遠い状況だった。

【7-9月期】県内主要旅館の売上高は、前年を大きく下回る見通し。移動自粛が解除されて最悪期は脱することができそうだが、夏の主要イベントが中止になっており、前年並みの宿泊需要を確保することは難しい模様。国や県、市町の宿泊クーポンが旅行意欲を高め、宿泊需要を後押しすることが期待される。

県内 宿泊者数
(前年比)



資料：観光庁

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	下降	下降	—

外食

来客数は前期より改善するが、前年を大幅に下回る

【現況】



【見通し】



【7-9月期 売上高】

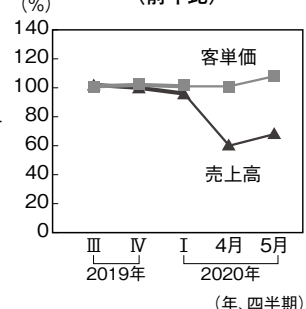
前年同期比 4-6月期比



【4-6月期】主要外食店の売上高は、前年を大幅に下回った。緊急事態宣言が発出されたことで、多くの飲食店が営業時間の短縮や営業自粛を求められた。売上確保に向けてテイクアウトを実施した飲食店もあったが、売上高への貢献は限定的だった。

【7-9月期】主要外食店の売上高は、前年を大きく下回る見通し。緊急事態宣言が解除され、売上高、来客数は前期より改善するが、来客数は前年の7割程度までしか戻らない模様。「新しい生活様式」に対応するため、客席間の距離を確保し、客席を従来の6~8割程度に抑える店舗が増える見通し。

全国 外食売上高・客単価
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	下降	横ばい	—